



かいとう かさい こじんよう  
《灰陶加彩胡人俑》唐時代(618-907年)

俑とは、中国で身分の高い人のお墓に副葬した人形の事です。この作品は、唐時代(618-907年)に作られました。

衣装にほどこされた色彩が、今でもきれいに残っています。

頭巾をかぶり、向かって左の手を胸の前に挙げ、斜め上を見上げています。

淡い緑色と褐色の膝まである長い上衣を着て、長靴をはいて足を少し広げて立っています。

この男性はラクダをひいて、シルクロードを往来した中央アジア系の胡人とみられます。

胸の前にある手は、手綱たづなをにぎっているのかな？

それともガッツポーズかな？

男性は、どれだけの距離を移動するのでしょうか？

みなさんはシルクロードでどんな服を着てみたいですか？さあ、自由に色を付けてみましょう。

